

2023 年度 個人研究実績・成果報告書

2024 年 4 月 23 日

所属	商経学部	職名	教授	氏 名	荒川敏彦
研究課題	マックス・ヴェーバー研究				
研究キーワード	Lebensführung, Entzauberung, Theodizee, Gehäuse, Charisma, Max Weber	当年度計画に対する達成度		3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した	
関連するSDGs項目	5. ジェンダー平等を実現しよう	8. 働きがいも経済成長も	10. 人や国の不平等をなくそう	16. 平和と公正をすべての人に	
1. 研究成果の概要 マックス・ヴェーバーの『宗教的ゲマインシャフト』草稿についての基礎研究の一端を発表できた。新たにウェルビーイング論について共同研究を開始し、日本社会関係学会でウェルビーイング概念の起源に関する問題を報告できた。経研プロジェクトではトルコ調査を通して文明の交差する地域の歴史と現在を感受できた。 2. 著書・論文・学会発表等 (できるだけご記入ください。査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載) 【論文 (査読あり)】 【著書・論文 (査読なし)】 「マックス・ヴェーバー『宗教的ゲマインシャフト』草稿の基礎的研究 (1) ——Religion の定義の留保と理解社会学宣言」『千葉商大論叢』第 61 巻第 3 号、19～42 頁、2024 年 3 月。 【学会発表等】 「Well-being 論における WHO 起源譚の陥穽」日本社会関係学会 第 4 回研究大会、公募パネル「ウェルビーイング概念の拡大——人・社会・自然のウェルビーイング」、2024 年 3 月 21 日、日本大学。 【書評】 「中村優介著『イギリスの戦後ヨーロッパ構想とフランスの再興』 なぜイギリスは自由フランスを支持したのか——チャーチルと外務省の交錯を未公開史料をもとに描き出す」『CUC View&Vision』千葉商科大学経済研究所、57 号、2024 年 3 月。 3. 主な経費 暦研究において貴重な稀覯資料を購入した。 4. その他の特筆すべき事項 (表彰、研究資金の受入状況等) 千葉商科大学経済研究所 研究プロジェクト「労働観の表象と変遷に関する比較歴史社会学」(研究代表者) (本文は 2 ページ以内にまとめること)					